

山行報告書

神戸勤労者山岳会

- 1 参加者 L 仲島、保木本、西、湊、宮島
2 山城・ルート 板取川/海の溝洞
3 交通手段 車
4 行動記録
2018/8/4(土)

日帰り	山行	3時間5分	休憩	5時間25分	合計	8時間30分					
S	入溪(海の溝谷分岐)	08:30	08:50	2m滝 F1	09:50	11:15	4m滝	12:50	13:35	3mCS	16:00
16:35	遊行終了点~林道出発	17:00	17:00	ゴール地点	G						

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

3つの滝の登攀でかなり時間がかかったため当初の計画よりも遅くなったが、水平距離が短い沢のため日没前に抜けられた。

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す

3mCS 上の左岸の登りでセカンド M がアッセンダーで登攀中に滑って滝口へ振られた。滑ることを前提にアッセンダーの位置を上へ上げていたので滝までは落ちずに済んだが、ロープ途中の結び目とマイクロトラクションが絡まって動けなくなり、オートブロックでアッセンダーを作り直し、マイクロトラクションを外して登った。

→結び目を解いておくべきだった。（滑るのは防止できない）

c その他、ルートに関する情報・気がついた事等

海の溝谷は4級はあると思われる。3つの滝の登攀はどれも難しかったが、3mCSは核心だけあって一番難しかった。少なくとも一人はクライミング力がないと突破できないが、メンバー全員に登攀力があるのが望ましい。逆に言えば最初の2m滝が突破できない場合には先に進めないで、一歩も進めず安心して敗退できる。

どなたか水の底にあるカムとアブミを拾ってきてくれないでしょうか。

写真・感想はヤマレコ参照

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1546567.html>

報告者氏名 宮島 2018年8月18日

【ヤマレコより】

盆に行く予定の沢の練習との題目で来てみたが、明らかにこちらの沢のほうが難しかった。そもそも泳ぎで短い海の溝洞と登りで距離が長い盆の沢では形態がまったく異なるので練習になったのかどうか。もっともこれだけ難しい沢に行けたのだから盆の沢(3級上)には行けるだろうという意識にはなったが、もう二度とくることはないだろうというほど難しかった。

少し探したら入渓地点は橋のたもとからうまい具合に懸垂下降でちょうど沢の入口に降りられた。

【2m 滝 F1】

いきなり 2m 程度の小さな滝の突破でつまづく。最初にゴルジャーが突破を試みるもうまくいかずに戻る。闘将に交代すると、あっさりと登る。しかしセカンド以降は苦勞する。滝の手前の左側へ離陸して登るイメージだが、持ちてがあまり。自分も一度離陸するも滑って落ちて戻されてしまった。再度離陸してなんとか突破。相当時間がかかったように思えたが自分がかかった時間は 5 分だった。しかし全員突破するにはかなり時間がかかり都合 1 時間かかってしまった。途中で後続に 3 人組のパーティーの方が来られたがだいぶ待たしてしまった。

その後小さく高巻いたり、へつったりする。大したことのない小滝では自分がリードして遊ぶ。一部滑りそうで少し怖い小さな高巻きもあった。

【4m 滝+大釜】

少し進むと大きな釜を持つ 4m 滝があった。我々は遅いので後続のパーティーに先を譲ったが、そこまで簡単な登りではなかったらしく左岸巻きを検討されたが、道がなくて戻ってこられた。その間に闘将が泳いで取りつき、試しに取りついてみたところ、思ったよりも登りやすかったらしく残置ハーケン地点まで登る。登れると思って取りついていないので、ザイルもないフリー状態なので、慌ててザイルを渡す。そうしてすんなりと突破してしまった。さすがは 11 クライマーである。

「突破してしまったらから、うちらも登らなあかなあ」と僕と釣りキチ先輩。登れるか分からないが登るしかない。アッセンダーを効かせて空身で登ると思ったよりも登れた。少しハングしているのでそれが少し難しい。滝の落ち口は水の流れが激しいので足を持っていかれそうになるが、奥にガバがありそれをつかむと登れた。結局ここでも残りのメンツの突破に時間がかかり、なんと突破に 1 時間半かかってしまった。後続の方すいませんでした。

その先のゴルジュは流れが速いので突破はできず、左岸を高巻くことに。先頭のゴルジャーが落石し、さっきまで自分がいた場所に落ちてきた。高巻くときには下の状況を見ないと危ない。

【3mCS】

すぐに核心の 3mCS に出た。これがよく見る CS か。今回の山行はリーダーであるゴルジャーの希望だったので、ゴルジャーがリードする。まずは左岸を泳いで取りつくが、取りつくまでも流れがあるので大変。CS の下に到着するが、残置スリングも流木もなくて苦勞している。右のクラックにカム+アブミを決めようとするが幅が広くて何回も抜けている。結局リードの突破だけで 50 分かかる。さらに全員の突破には 2 時間かかってしまった。

二人目が登っているときにカムが抜けて、カム+アブミが水の底に沈んでしまった。三人目の自分のときに潜って探そうかと思ったが、アッセンダーで登攀中で難しくあきらめた。

【左岸登り】

そのあとに左岸の小さな登りがあるのだが、闘将曰く、ここが一番難しかったとのこと。つるつるで手がないし、落ちたら滝口にはまって大変危険。ハーケンで支点を取ろうと試したが岩溝がなく

はいらなかった。フリーで落ちずに闘将が越えたが、セカンドの自分は案の定落ちてしまった！ただし、アッセンダーでぎりぎりまで短く上げていたので滝つぼまで落ちずに助かった。しかし宙ぶらりんになってしまい、マイクロトラクションとロープ途中のむずび目がひっかかり外れなくなってしまった。仕方がないんで、オートブロックでアッセンダーを作り直し、マイクロトラクションを外して登り切る。落ちた瞬間は一瞬なので怖くなかったが、落ちる前と落ちて宙ぶらりんの状況では怖かった。冷静にマイクロトラクションを外せたのは不幸中の幸い。後続の他の方はお助け紐も出してもらい、左岸をうまく登った。

この時点でもう 16 時。林道へ登る地点を調べておらず、日没が怖いので先を急ぐ。すると 30 分も進むと登れそうな斜面があった。急だったが登るとあっという間に林道へ出た。林道で着替えて下り、車を回収。17 時を回っており予約していたキャンプ場へ連絡するとなんとか間に合うようで助かった。夜は板取川温泉キャンプ場で BBQ して明日に備えた。

3 つの滝の突破にかなり時間がかかってしまった。4 級の沢だ。時間がかかり最後は焦ったが、水平距離が短かったので日没前に抜けられて助かった。ここまで難しい沢にはもう来ないかな。

以上